

保育計画成果報告書

法人名等	社会福祉法人 白樺会
施設名	小規模保育園しらかば
報告者（役職）	黒原 唯（園長）
住所・連絡先	岡山市中区湯迫19番地1
	☎ 086-201-8797
	E-mail info@shirakaba-kai.com

○タイトル（保育計画）

高齢者と一緒に、心も体も元気でいっぱい！！“かがやく未来へ しらかばっ子”

○主な助成備品



1. 保育計画策定の目的

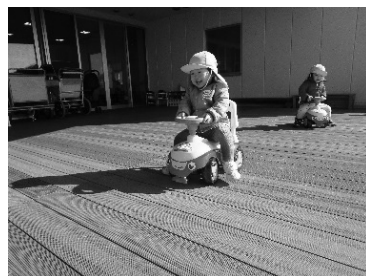
小規模保育園しらかばは、令和2年4月1日に開園した保育園です。当園は、特別養護老人ホームの建物の中に保育園があるので、子どもたちは高齢者との交流を通して相手をいたわる気持ちや、思いやり・マナーなどを身に付け、高齢者は子どもたちと触れ合うことで活力が生まれる環境の中で生活を送ることができます。しかし、新型コロナウイルスが流行し、楽しみにしていた子どもたちと高齢者との交流やふれあいは窓越しの交流しかできていません。子どもたちはウッドデッキに出て高齢者の姿を見つけると駆け寄って手を振り、高齢者もデッキで遊ぶ子どもたちの姿を見つけると窓の近くまで移動して子どもたちの様子を笑顔で見守ってくれています。子どもたちや高齢者の姿から直接的な交流は難し

いが、“しっかりと体を動かして楽しく遊ぶ子どもたちの姿を見てほしい”、また、見てもらうだけではなく“一緒に楽しめる活動がしたい”と2つの思いから計画を策定しました。

2. 具体的な実施内容

【コンビカー】

- ・いつでも遊べるようにコンビカーを保育室に設置しておく。
- ・床を蹴る力を調節し、速度の変化に気付く。
- ・順番やルールを守るなどの社会性を身に付ける。
- ・ウッドデッキに出て広い環境の中でコンビカーに乗る。



【ジャングル平均台】

- ・好きな渡り方で平均台に慣れていく。
- ・太さの違う道や段差のある道などいろいろな道を渡ってみる。
- ・バランス感覚を身につけ自信をもって平均台を渡りきる。



【鉄棒】

- ・ぶら下がる時間を少しずつ伸ばしていく。
- ・ぶら下がってブランコのように前後に揺れてみる。
- ・揺れながら鉄棒の前後に着地する。



【大型絵本】

- ・子どもたちが好きなお話を中心に絵本を選ぶ。



3. その成果と評価

【コンビカー】

乗り始めたころは、順番を待つことができなかつたり、さまざまな向きに走行したり、時にはスピードを出しすぎて衝突してしまふことがありました。遊んでいく中で、友達と交代ができるようになったり、友達の後ろに続いて走ってみたり、友達と一緒に楽しむ姿も見られるようになりました。また、友達と楽しむ中で、友達と同じ速度でゆっくりと走ることも身に付けているようです。1～2歳児が楽しむ姿を見て、0歳児も同じように、床を一生懸命蹴って進もうとしますが、初めはなかなかうまく進めませんでした。うまく進まない様子を見た1～2歳児が0歳児の乗っているコンビカーを優しく後ろから押して進める姿が見られました。ウッドデッキに出て乗ってみると開放的な環境にデッキの端から端までドライブを楽しんでいます。高齢者も子どもたちの姿に「じょうずじょうず！」と手をたたいて応援してくれています。

【ジャングル平均台】

繰り返し活動の中に取り入れていくことで、体幹が鍛えられ、バランスをとりながら渡りきるようになりました。初めは短かった平均台の長さも回数を重ねていくごとに長くなっています。「できないよ」とあきらめることが多かった子が、「見ててね」と最後まで渡りきる姿を見せてくれるようになりました。また、ジャングル平均台は、子どもたちにも扱いやすいようで、初めは保育士がコースを用意していましたが、今では子どもたち同士で考えて平均台を繋げてコースを作り、渡ることを楽しんでいます。バランス感覚が養われてだけでなく、友達と協力してコースを作る楽しさも感じているようです。

【鉄棒】

まずは、ぶら下がって遊びことから始めました。ぶら下がり始めたころは、握力が弱く、保育士が体を支えていないとぶら下がることができず、腕がまっすぐ伸びたままでした。握力がついてくると1人でぶら下がりがたがる姿が増え、体を前後に揺らすようになりました。また、足を曲げて揺れたり、鉄棒の前後に揺れながら着地したりすることが多くなり、足を高く上げて逆さまにぶら下がることを楽しむ子の姿もあります。このような子どもたちの様子から、鉄棒を楽しみながら筋力がついてきていることを感じました。

【大型絵本】

大型絵本の読み聞かせを始める前から、絵本を読んでもらうことを喜び、お話が始まると保育士の元へ集まってくる様子はありませんでしたが、途中で寝転がったり、立ち歩いたりしてしまうことが多かった子どもたちでした。大型絵本を読み始めてから、よく知っているキャラクターが目の前にせまってくる大迫力に喜びを感じているのか立ち歩くことが少なくなり、最後までお話に集中し、その世界に入ってお話を聞いているようです。また、2歳児は「3びきのやぎのがらがらどん」のお話を気に入り、がらがらどんになって劇遊びを楽しんでいます。

4. 今後の課題と展望

この計画を策定したのは高齢者に“しっかりと体を動かして楽しく遊ぶ子どもたちの姿を見てほしい” “一緒に楽しめる活動がしたい”という2つの思いからでした。高齢者との交流はまだ窓越しのままですが、今後はコンビカーだけではなく、上手に渡ることができるようになった平均台などを使ったサーキットもウッドデッキに作り高齢者に見てもらいたいと思います。新型コロナウイルス感染症が終息したら、子どもたちが夢中になっている大型絵本を子どもたちと高齢者が一緒に楽しめる環境や、子どもたちの劇ごっこを披露できるような環境も設定し、高齢者と同じ建物の中で生活していることを活かした子どもたちも高齢者も元気と笑顔あふれる毎日していきたいと思います。

以上